

小学校国語 教材研究のステップ

ステップ 1

◇育成を目指す「資質・能力」の確認

- ・学習指導要領や各校の方針、計画（年間指導計画表）を基に、本単元で育成を目指す「資質・能力」を確認する。
- ・本単元までに付いている力、今後付けるべき力を確認する。（学年の系統・当該学年での同領域のつながり）

育成を目指す資質・能力はこれ！
学習指導要領解説国語編を開いて、重点とする指導事項の解説を読んでみよう。
 昨年度はここまで力をつけているから…。

ステップ 2

◇目標の設定

- ・学校や児童の実態に応じて、単元の目標を設定する。
- ・単元末で「資質・能力」が身に付いた児童の姿の具体をもつ。

3観点それぞれの目標を設定するよ。文末は「～できる。」だね。単元末ではこんな姿を期待したいな。

ステップ 3

◇言語活動の設定

- ・単元の目標を実現するためにふさわしい言語活動を設定する。

学習指導要領解説国語編の言語活動例を参考にして考えよう。育成を目指す資質・能力は～だから、この力を十分発揮できる言語活動を設定しよう。

ステップ 4

◇評価規準の設定

- ・単元の評価規準を設定する。

この単元の重点指導事項はこれ。知識・技能、思考・判断・表現の文末は「～している。」だ。

ステップ 5

◇単元の指導と評価の計画

- ・単元のゴールに向かって、「資質・能力」を育成するための具体的な学習活動を考える。（ゴールから単元を逆向きにデザインしていく。）
- ・単元のどの段階で、どの評価規準に基づいて評価するかを設定する。
- ・見方・考え方を働かせている児童の具体の姿を描く。
- ・「資質・能力」が身に付いたかどうか学習状況を把握するため、児童による「振り返り」の場面を設定する。

この単元は全7時間。言語活動はこうだから、ゴールにたどりつくまでに必要な学習活動を、育成したい資質・能力に沿って逆向きに考えてみよう。6時間目の学習活動は…。そうすると4時間目あたりで…。

記録に残す評価は内容のまとめごとに行い、指導に生かす評価は毎時間行っていこう。Bと判断する状況はこんな状況を期待したいから、これを子どもの言葉にすると…。Cと判断する状況への手立ては…。

振り返りの視点を明確にして、**学習改善・授業改善を！**

〈単元のゴール〉

前は考えつかなかったけど…
 今日ここまでできた。次は…
 やった！また一つ「読む」力を、獲得！



今日できるようになったことは…
 これまでの学習と似ている所は…

〈単元のスタート〉

ノートやICTを活用し、振り返りを蓄積することで過去の自分と対話。

毎時間の学習に、必ず「振り返りの場」を設定して、児童が自分の学びを振り返ることができるようにならう。そのためには、タイムマネジメントも意識しないといけないな。振り返りの具体的な内容を授業の前に考えておこう。